

柳本 恐怖に打ち勝つ



ミラノのマルペンサ空港に到着した柳本理乃。左は富高日向子（3日）（共同）

雪と氷と

日本時間10日夜のフリースタイルスキー・モーグル女子予選で、柳本理乃（愛知タイハツ、愛知県津島市出身）が初の五輪に挑む。今季の開幕直前の大けがで五輪出場が危ぶまれた日本女子のエース格は、懸命なりハビリと周囲の支えで夢舞台にたどり着いた。「自分の滑りを通して諦めないことの大切さを伝えることができた」

モーグル女子 骨折乗り越え

五輪に向け、弱点を克服しよう
と攻め続けた結果の事故だった。
4年前の北京冬季五輪では、日本
代表候補の一人として挙げられな
がら、代表選考レースで僅差で敗
れた。失意のあまり、「北京五輪
を（テレビでも）見られないんじや
ないかな」と思っほど落ち込んだ。
立ち直り、冷静に自己分析し
た。「エアとターンの技術は（ト
ップの）海外勢にも劣っていない」。
五輪でのメダル獲得へ、ス
ピード面で特に力を入れることを
決断した。

繰り返したのは、初速を出すた
めスタート直後のこぶに真っすぐ
突っ込み、勢いをつける練習だ。
「スピードがすごく、完全にはコ
ントロールできない状態」になる
ため、恐ろしさは相当ある。それ
でも自らの進化のため、耐えた。
今季開幕前の事故も、その練習
の最中だった。緊急帰国し、休養
を強いられた。だが「挑戦した中
でのけがだったので、そんなにマ
イナスにはとらえていない」と前
を向いた。リハビリは順調に進
み、年明けの1月10日にW杯に復
帰した。

スキー好きの両親のすすめで小
学1年で競技を始めた。清林館
高、愛工大と進み、腕を磨き続け
た。2023年12月のW杯ではモ
ーグルとデュアルモーグルの両方
で2位となり、初の表彰台に乗っ
てみせた。

たどり着いた初の五輪。けがし
た体は癒えたが、内面には傷痕は
残る。W杯復帰時には「雪上とな
ると恐怖心が勝って、自分らしい
滑りがまだできない状態」とも明
かした。

だが五輪への情熱は衰えること
はない。予選を翌日に控え、9日
に本番会場で練習した柳本は「恐
怖心はあるが徐々に攻められるよ
うになってきた。すごくいい状
態」と力を込めた。（水谷元海）